

質問しつもん

まちづくりや暮らしに関する制度、市が行う事業の執行状況や将来の方針について、議員が質問を通して市の見解を求め、主張・提言・指摘を行います。

3月定例会では、6つの会派を代表する各議員が代表質問をしました。質問時間は、答弁の時間を含めて1人60分です。

感染症対策

演壇・質問席のアルコール消毒、演壇にアクリル板を設置、市の説明員の出席調整等を行っています。



三田市議会会議録

検索



三田市議会ユーチューブチャンネル

検索



※本会議の録画映像を公開しています。

盟政会

森本 政直 議員



市政

森市政2期目の総括と次期市長選への思いは

議員 第5次三田市総合計画を策定し今後10年の進むべき方向性を示すなど、森市長の行政手腕に一定以上の評価をしているが、市長自身の評価と次期市長選への思いは。

成熟のまちづくりの歩みは大きく前進した

市 人口減少や地域医療確保、学校園再編等、市を取り巻く状況は厳しく、市政についての丁寧な説明や対話が不十分との指摘に関しては重く受け止めている。一方、市政を担う重責を常にかみしめ、三田を元気なまちにしたいという揺るぎない思いや未来への強い責任感が自身を奮い立たせてきた。市民や事業者団体等の協力もあり、今後の方向性の道筋を立て軌道に乗せるなど、4年前に思い描いた成熟のまちづくりの歩みを大きく前進させられたと考える。また、次期市長選については慎重に熟慮を重ね、近く議会で進退を明らかにしたい。(森市長)

市民病院

市民病院の再編統合に向けた今後の準備は

議員 令和4年12月に三田・北神地域の急性期医療の確保に関する基本構想が策定され、今後、新統合病院に向けての取組が進むが、事前にできることは早い段階からの準備が必要では。

医療資源の集約化と指定管理者制度の導入を進める

市 三田市民病院と済生会兵庫県病院の診療機能の維持とともに、新統合病院の円滑な運営に向けた準備を進めていく必要があり、医師の働き方改革の対応策の検討も喫緊の課題であることから、今まで以上に医療資源の集約化を図る必要がある。令和7年4月を目途に現市民病院へ指定管理者制度の導入を進めていく。(森市長)

環境

野外焼却の今後の対応は

議員 農業に伴うやむを得ない野外焼却は例外として認められているが、近隣に迷惑をかけるように行うのは当然で市民相互の心配りは必要である。そろそろ市による刈草回収は取りやめ普段の状態に戻しては。

刈草回収を継続し、安心して生活できるまちを目指す

市 環境サポートセンターを設置し個々の事案に対応することで違法なごみ焼却や無秩序な野外焼却は減少し、苦情通報件数も減少している。刈草回収は継続要望もあることから継続し、農業者と都市住民が互いに理解し合いながら安心して生活できるまちを目指す。(森市長)

他の質問 ●市内の県道整備について 他2件

新政みらい

厚地 弘行 議員



少子化

合計特殊出生率が低い原因と対策は

議員 保健統計年報によると平成27年の市の合計特殊出生率は1.27で、全国や兵庫県の平均と比べて低く、宝塚市1.44、伊丹市1.57など周辺市と比べても低いが、原因と対策は。

原因を踏まえ若年人口増加に向けた取組を実施

市 令和2年度の合計特殊出生率は1.13で、なお低い状況にある原因として、女性の未婚率が県下で2番目に高いこと、既婚女性千人あたりの出生数が少ないこと、第1子出産後に転入する子育て世帯が多い傾向にあることなどが考えられる。対策として、まず、結婚新生活支援制度等による若者の婚姻促進の取組、次に、子ども家庭センター設置や三田版ネウボラ拠点拡充等による育児や共働きがしやすいまちに向けた取組、そして、住み替え支援制度や空き家リフォーム補助制度等による若者・子育て世代の転入増加に向けた取組により、若年人口増加を図る。(森市長)



説明 *ネウボラ：フィンランド語で「アドバイスする場所」を意味する言葉で、行政が妊娠や出産、子育ての支援をする拠点のこと

産業

第三テクノパーク候補地選定理由と渋滞対策は

議員 重点候補地を下相野地内の約17.6haの区域に選定した理由は。また、第二テクノパークに隣接することによる渋滞問題への対応は。

ニーズの高い候補地を選定、アクセス多重化を図る

市 重点候補地は企業ニーズの高いインターチェンジ付近を選定し、早期に事業効果が見込め、事業推進の図りやすい面積規模とした。また、通勤の渋滞対策として、都市計画決定した第二テクノ線や、国道からアクセスできる県道三田西インター線等の整備を進めアクセスの多重化を図る。

(濱田副市長、甲斐地域共創部長)

まちづくり

ニュータウン再生事業の取組は

議員 フラワータウンのグリーンスローモビリティ実証実験の結果は。また、つつじが丘の再生準備は令和5年度から始まるのか。

地域に合った再生の検討を進めている

市 グリーンスローモビリティ実証実験では買い物など近距離の移動サービスとしての有効性、ルートや運賃収入等の課題を認識した。医療や教育等、他分野との共創により地域ぐるみで盛り上げ、令和6年度の実装に向け取り組む。また、つつじが丘の再生は、商業施設の新たな事業者への入居促進支援や開発業者との連携により、地域に合った体制づくりやニーズ把握の検討を進めている。

(森市長、濱田副市長)

他の質問 ●三田市民病院の統合計画について ●財政見通しについて 他2件



フラワータウン